

# 今日からはじめる 不登校対応

平成 27 年(2015 年) 3月  
青森県総合学校教育センター 教育相談課  
研究員 小山内将淳

# 不登校対応の全体像

## 1 不登校の未然防止

どの児童生徒も安心して生活できる学校・学級づくりを目指す

- ① 普段から児童生徒の観察を欠かさず、変化に気づき、素早い対応をする
- ② 学校・学級が安心して生活できる場所になるための取り組み
- ③ 授業を見直し、わかる授業や授業を通して勇気づけを行う

※ 不登校についての校内研や外部研修などに参加し、知識理解を深める

## 2 不登校傾向の兆候・早期対応

- ① 不登校のサインを見逃さないために心がけておくこと
- ② 早期発見のためのチェックリスト

※ 未然防止と同様、教師と児童生徒の話しやすい関係を築いておく

## 3 不登校児童生徒の支援

- ① 認識を変える…児童生徒の気持ちになって考える
- ② 心がけ…信頼関係を築き、将来を考えた支援を目指す
- ③ チェック…心の状態や学校への関心度をチェックする
- ④ 組織的対応…担任一人で抱え込まず学校の課題として
- ⑤ ケース会議…児童生徒の状況把握・支援策を検討
- ⑥ 関係づくり…本人や保護者の気持ちを支え続ける
- ⑦ 登校刺激…元気が出てきたら焦らずじっくりと
- ⑧ 具体的支援…学力、体力、学級・学校の受け入れ態勢の準備。相談室等別室での支援
- ⑨ フォロー…教室復帰後の対応

## 4 関係機関との連携

- ① 関係機関を紹介する前に…関係機関はアドバイザー役
- ② 関係機関はどこ？…関係機関の紹介
- ③ 学びのすすめ…研修や学習会等でスキルアップを

将来を見すえ、  
生きる力を育てる支援

学級復帰へ！

自他ともに認め合い、居心地の良い学級

一人一人に、あたたかい支援のある学級

不登校児童生徒のいない、あたたかく・みんなで支え合える学級

# 1 不登校の未然防止

Q 不登校を生まないための、基本的な考え方を教えてください。

A 不登校の問題は、「児童生徒が抱えているストレス」から生じます。ストレスが少なく、すべての児童生徒が学校に行きたいと思うような居場所をつくるのが未然防止につながります。そのためには、「どの児童生徒も安心して生活できる学校・学級づくり」と「どの児童生徒も活躍できる場をつくること」が大切になってきます。

Q 具体的にはどういう取り組みをしていけばよいのでしょうか？

A 下の3つの事を心がけて取り組んでいきましょう。大切なのは児童生徒の勇気づけです。

## ① 普段から児童生徒の観察を欠かさず、変化に気付き素早い対応をする

- ☆ 児童生徒をよく観察する。授業の合間や昼休み、グループ分けは人間関係を観るチャンス。
- ☆ 気になる児童生徒に話しかけ、困りごとやニーズを聴く。
- ☆ 児童生徒の内面を理解するためにQ-Uやアセスなど検査を実施し、支援に生かす。
- ☆ 教師間や、校種間で情報交換を行い、児童生徒理解と支援に生かす。
- ☆ 一日の欠席でも電話連絡を欠かさず、保護者と良い信頼関係を築く。



※校内研や外部研修など積極的に参加し、知識や理解を深めましょう。

## ② 学校・学級が安心できる場所になるための取り組み

- ☆ 勇気づけがある学校・学級風土づくりを進める。  
→勇気づけとは、「困難を克服する力を与えること」です。そのためには児童生徒を共感的に理解し、短所や欠点より長所やいい所、出来ていることに多く注目します。また、他者との比較ではなく、その子の些細な努力や成長に目を向ける態度や言葉がけなどをしていきます。

### ○勇気づけがある学級をつくるために

- ・ 教師と児童生徒の縦の関係を保ちつつ、児童生徒を尊重・信頼する横の関係で関わる。
- ・ 不適切な行動に(過度に)注目せず、適切な行動に注目し、声かけをして認めていく。
- ・ 「がんばっているね」「一生懸命やっていたね」など結果ではなく過程に注目し、声をかける。
- ・ 「この部分はいいと思うよ」など、できていないことよりも、できていることに注目する。
- ・ 「手伝ってくれてうれしい」などの貢献に注目し、感謝の気持ちを伝える。
- ・ 失敗を一方的にとがめるのではなく、「この後どうしたらいいと思う？」など、失敗から学ばせる。
- ・ 「どう思う?」「自分で決めた方法でやってごらん」など児童生徒自身に任せてやらせてみる。
- ・ 「頑固→意志が強い」「臆病→慎重」など、子どもの特徴を肯定的に捉える(リフレーミング)。
- ・ 「そうか~そうだったんだ」など共感的に関わり、聴き上手になる。
- ・ 叱る時は原因探しばかりせず、感情的に叱らない。行為を叱り、人格は否定しない。

### ○児童生徒一人一人が、学級に所属感や貢献感をもつ取り組み

- ・ クラス会議を行い、個人や全体の問題を全員が前向きに考え、相談者の感謝の気持ちや学級への所属感を大きくしていく。また、クラスの一人一人が思いやり、助け合うという感覚を育てる。
- ・ 対人関係ゲームなど簡単なエクササイズで、遊びながらもいろんなタイプの人と話をしたり協力する機会を増やす。



## ③ 授業を見直し、わかる授業や授業を通して勇気づけを行う

- ☆ 教師目線から、初めて学ぶ児童生徒の目線に変え、わかりやすい授業を心がける。
- ☆ 児童生徒の発言を「復唱と質問」で展開し、満足感を得られるよう勇気づける。

## 2 不登校の兆候・早期対応

Q 不登校が心配な児童生徒がいるのですが、どう対応すればいいのでしょうか？

A 普段からよく児童生徒を観察し、心のサインを見逃さないようにしましょう。そして、気になる時には声かけをしましょう。欠席の時は家庭と連絡をとり、児童生徒一人一人を大切に言葉をかけることで、元気に登校するでしょう。また、子育てで心配になっている保護者には、気持ちをくみとり、優しい言葉でねぎらうことで、不安を和らげてあげましょう。

### ① 不登校のサインを見逃さないために心がけておくこと

- ★ 一人一人の微妙な変化に気付き、声かけをする。
- ★ 連続欠席、月3日以上欠席は注意信号。
- ★ 欠席の対応（本人も保護者も心配なことがありそうなときは傾聴を心がけ、不安が和らぐように話をする）
  - ◎ 1日目 病気欠席の時は症状や病院の受診状況を聞き、状況次第で適切な休み方を助言する。放課後電話等で家庭連絡。子どもの様子を伺い、気遣いや大切に思っている気持ちを伝える。
  - ◎ 2日目 家庭連絡をして様子を聞き、欠席理由を確認する。状況次第で家庭訪問をする。医療機関を受診していない場合は受診を勧め、子どもに安心感を与える。
  - ◎ 3日目 家庭訪問を行い、本人から様子を聞いたり、保護者から最近の家庭での様子を聞く。学習の遅れやクラスメートの視線などに不安を抱いている場合は、安心して登校できるような声かけや支援をする。

### ② 早期発見のためのチェックリスト（はい：○ どちらでもない：△ いいえ：×）

#### ★ 全体的な傾向

- ・ 最近なんとなく表情が暗く、不安そうである。
- ・ 人から話しかけられても、反応が鈍い。
- ・ 一日の中での気分の変動が激しい。
- ・ ちょっとしたことでもイライラしたりふてくされる。
- ・ 何かを決めるのに時間がかかる。
- ・ 友達との関わりが少ない。
- ・ 人の視線や噂を非常に気にする。

#### ★ 学校での様子

- ・ 身体の不調を訴え、保健室の利用が多くなる。
- ・ 休日明けや特定の日に欠席・遅刻が目立ってくる。
- ・ 欠席が連続するようになる。
- ・ 授業に集中力がなくなり、ぼんやりしている。
- ・ 授業中、よくトイレに行くようになる。
- ・ 学習用具の忘れ物が多くなる。
- ・ 成績が目に見えて下がり始める。
- ・ 休み時間や清掃時間に孤立する傾向がある。
- ・ 教師との接触を避けたがる。
- ・ 部活動や課外活動や塾をやめたがる。

#### ★ 家庭での様子

- ・ 起床時間が遅くなりなかなか起きられなくなる。
- ・ 夜中まで携帯（スマホ）やゲームに夢中だ。
- ・ 朝、体の不調を訴える。昼には回復する。
- ・ 登校時間になるとトイレにこもる。
- ・ 着替えや朝食など登校まで時間がかかる。
- ・ 学校での様子を話そうとしない。
- ・ 外出が減り、自分の部屋で過ごす時間が増える。
- ・ 甘えてきたり、わがままになる（退行現象）。
- ・ 服装に無頓着になり、だらしくなる。
- ・ 学習に取り組む時間が少なくなる。
- ・ 塾や習い事などを休むようになる。

これらは目安ですので、これに限らず、なにかいつもと違うなあとと思ったら、話しかけてみましょう。また、話しやすい関係を普段から築いていきましょう。



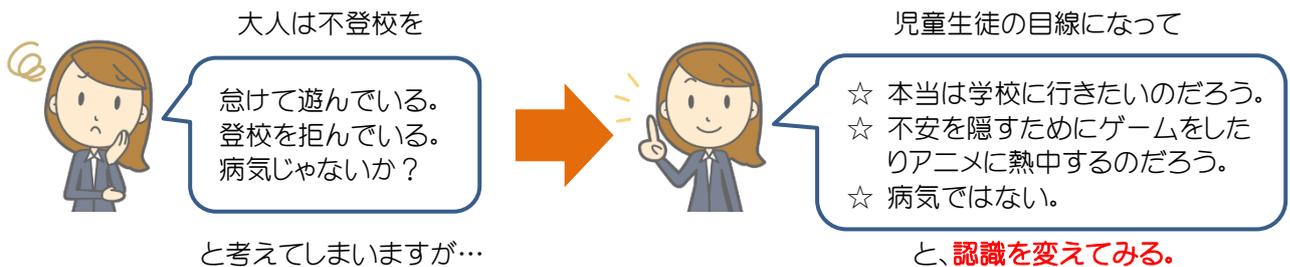
### 3 不登校児童生徒の支援

不登校の対応は、まず児童生徒の気持ちを十分に理解することから始まります。そしてストレスを乗り越える気持ちや自己肯定感など様子を見ながら支援していきます。また保護者の協力が絶対不可欠です。学校と保護者が協力し、学校復帰だけでなく、立ち立ちできる先を見越した支援を継続することが大切です。

#### ① 認識を変える

**Q** 不登校の子って、家でダラダラしているようにしか見えないんだけど…

**A** 本人は「学校に行かなくてはいけない」と分かっているけど、やっぱり学校に行けないと悩んでいます。大人が不登校に対する認識を変えると児童生徒の気持ちが見えてきます。

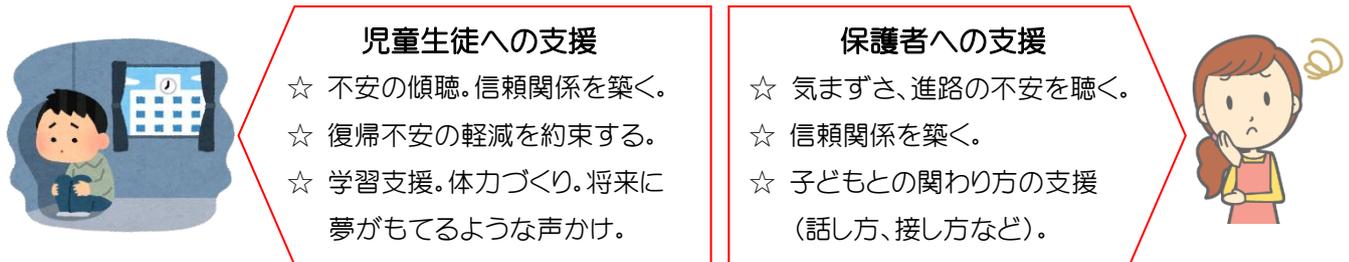


「困ったこと・悪いこと」というネガティブな見方から、この児童生徒にとっては「大人になるために必要なこと、大事なことをしている」というポジティブな見方に変えると、教師も保護者も焦りや不安を持たずにじっくりと取り組む姿勢になっていきます。そして何よりも、児童生徒に愛情をもって、接していきましょう！

#### ② 心がけ

**Q** 担任として、本人と保護者に何を心がけて支援をしていけばよいのでしょうか？

**A** 生徒に愛情をもって接し、学校と本人・保護者との信頼関係を築き、将来の生きる力をつける支援を継続していくことを心がけていきましょう。



#### ③ チェック

**Q** 児童生徒の心の状態を理解するために、どんなことをチェックすればいいのでしょうか？

**A** 不登校児童生徒の心のエネルギーの状態と学校への関心度に着目します。

心のエネルギーはどのくらい？

- ☆ 外出できる時間と場所は？
- ☆ 生活リズムは？ 昼夜逆転？
- ☆ 家の手伝いはするか？
- ☆ 暇をもて余していないか？



学校への関心度はどのくらい？

- ☆ 道具や制服への拒否感は？
- ※ 明るい不登校は、エネルギーはあるが、学校への関心はないものととらえる。



不登校児童生徒の様子をしっかりと把握することが、次の具体的な支援につながっていきます。

Q 担任として、対応がうまくいかず苦しんでいます。みんなで取り組みたい・・・

A プロジェクトチーム等を編成し、学校全体で取り組みましょう。

担任や学年の対応が苦しくなる前に、組織的対応を始めましょう。構成は学校の規模により柔軟に組織し、多くの視点で児童生徒の支援を考えていくことが大切です。

### 不登校対応プロジェクトチーム

校長・教頭・生徒指導主任・学年主任・学級担任・養護教諭・教科担任・部活動顧問・スクールカウンセラー（以下SC）・スクールソーシャルワーカー（以下SSW）など参加

#### A君支援チーム

学担・部活動顧問・SC

#### Bさん支援チーム

学担・学年主任・養護教諭

#### Cさん支援チーム

学担・前学担・SSW

Q 会議はどう進めていけばいいのでしょうか？

A 不登校児童生徒の情報を収集・分析し、担任を精神的に支える場にしましょう。

ケース会議の進め方  
(60分～90分の例)



【事例提供者（担任）から事例の説明をする。約5分】

【事例に関する質疑を一問一答です。10～20分】

【個人で、児童生徒の具体的な支援を考え、付箋や支援シートに書く。10分】

【全体での話し合いとまとめ 15～30分】

【コーディネーターやスクールカウンセラーからの助言 10分】

【3～5人のグループで検討する。10～15分】

### 心がけておきたいこと

- ① 不登校児童生徒と話しやすい人(インターフェイス)を決める。(担任・学年主任・養護教諭等)  
※ インターフェイスが担任でない場合は、不登校児童生徒とインターフェイスの先生との関係性ができたら必ず担任と交代する。
- ② 学校全体で不登校対応を考える場、研修の場にする。
- ③ 支援が長期化・こう着する前に、専門機関の助言を仰ぐ。
- ④ 不登校児童生徒や周りの環境に対し、ネガティブな思考の場にならないようにする。

Q 不登校児童生徒に対して、はじめに、どのような支援をしていけばいいのでしょうか？

A まず、児童生徒が失っている心のエネルギーを増やしていくため、家族への安心感や自己肯定感を育てていきましょう。学習や体力の支援は無理せず継続していきます。

【まず…保護者は不登校の責任や再登校へのプレッシャーを感じているかもしれません】



お母さん、大丈夫ですよ！大事なお子さんのために、これからも支援は続けていきます！



保護者の心労を察し、ねぎらいの言葉をかけてあげましょう。不登校児童生徒を元気づけるには、家族が元気なことが一番です。

不登校対応は保護者の協力が不可欠です。保護者の心情を察してあげましょう。保護者の気持ちが落ち着いてくると、自分の子どもにしっかりと向き合えるようになり、「いま、どんな気持ちなんだろう」と子どもの気持ちを察し、状況に応じた適切な言葉かけや対応ができるようになってきます。

【家庭との関係づくりや、児童生徒の気持ちを育てるために】

- ・家庭訪問は毎週おこない、行けない時でも必ず電話で連絡する。
- ・児童生徒に会えなくても焦らない。訪問することで学校との関係が保たれる。
- ・学級の児童生徒たちの様子を学級通信等で伝え、学級所属感を育てる。
- ・生活の様子を聞き、心や体力のエネルギーがどのくらいあるか探る。
- ・手伝いの様子を聞き、家族との関わりを増やしていけるよう助言する。
- ・児童生徒の趣味に対し、教師も関心を持ち、関係をつくっていく。等



家庭との信頼関係やつながりを切らないようにし、失った自信を回復するような関わりをしていきます。児童生徒が元気を取り戻し、将来の夢が大きくなると、夢を実現するためには「学校に行かなくてはい」という気持ちが生まれてきます。個性と夢を尊重し、まずは心を育てていきましょう。

Q だんだん元気が出てきたようです。登校刺激をするタイミングはいつでしょうか？

A 学校や将来のことを話し始め、家で過ごすのが暇だと感じてきたらチャンスです。

再登校の準備をしてもよいか、**心的エネルギー**と**学校への関心度**の様子をチェックします。児童生徒が元気になり、学校への拒否反応が少なくなってきたら、登校刺激を少しずつしていきます。大げさに喜び過ぎず、じっくりと登校準備を進め、再登校へ結び付けましょう。

心的エネルギーの様子

外出範囲が広がる

夢を語り始める

起床時間が早くなる

家の手伝いをし始める

退屈しはじめる



学校への関心度の様子

机の整理を始める

教科書を開き始める

卒業アルバムを開き始める

制服にブラシをかける  
サイズを気にする



他にも前向きな様子が見られることがあります。注意深く観察を。

Q 具体的な支援は何をやればいいのか？

A 児童生徒の様子を見ながら、以下の例を参考にしているいろいろ試してみましょう。

【学習・体力支援の例】

- ☆ 現在、学級で学習しているところを教え、授業についていけるようにする。
- ☆ 自習したプリント類を採点し、やる気の出るコメントをつけて返却する。
- ☆ 美術や技術など、作った課題を評価に生かす。文化祭等で展示可能か聞いてみる。
- ☆ 通知票の評定を付け、気持ちがこもったコメントを書いて渡す。
- ☆ 楽しくて簡単にできる運動（ダンスビデオ・なわとび等）を提案してみる。



【学級・学校の受け入れ準備の例】

- ☆ 不登校児童生徒の様子や学校に行きたい気持ちなどを学級できちんと説明しておく。
- ☆ いつ学級に戻ってもよいようにしておく。座席を廊下側の一番後ろにし、入りやすいようにする。
- ☆ 不登校児童生徒の存在感をなくさないように、学級の掲示物や係決めなど絶対外さないようにする。
- ☆ 登校しても大げさにせず、普段通りの挨拶をするなど教師・学級児童生徒間で共通理解を図っておく。

【登校訓練の例…できるようになったら次のステップへ進む】

- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 前日に制服や道具類を用意する。       | 8 学校の玄関まで行って戻ってくる。    |
| 2 朝、制服を着る。              | 9 保健室まで行って挨拶して帰る。     |
| 3 制服を着て過ごし、下校時間になったら脱ぐ。 | 10 保健室でしばらく過ごす。       |
| 4 朝、登校姿で玄関まで出る。         | 11 空いている教室に入ってみる。     |
| 5 次の角まで行ってみる。           | 12 得意教科など特定教科を教室で受ける。 |
| 6 学校が見えるところまで行く。        | 13 徐々に受ける教科や時間を増やす。   |
| 7 校門まで行って戻ってくる。         |                       |

※ 保健室など別室登校を希望したら、登校時に他の児童生徒に偶然会わないなど安全を確約します。

※ 調子がいいからと滞在時間を延ばすのは逆に疲れのもとになります。決めた時間以内で帰します。

Q 学級に入ることができましたが、再登校後に気をつけることは何でしょうか？

A 無理をしたり、周りに合わせていることがあるので、注意が必要です。

遅れを取り戻さなきゃ！



みんなに嫌われていないかな…

- ☆ 再登校後の児童生徒は、学習の遅れをとりもどそうと無理をしたり、周りの目を気にして人に合わせていることや不安が多く、心身ともに疲れているかもしれません。
- ☆ 全体的には明るくあたたかい学級づくりを継続していきます。不登校だった児童生徒を特別扱いせず、しかし、注意深く観察して変わった様子があればすぐに話を聞いて対応しましょう。

## 4 関係機関との連携

不登校状態が長引くと、先生方や保護者は「どこかに相談してアドバイスを受けて」「適応指導教室に通った方がいい」と思うのは当然のことです。児童生徒が将来ひとり立ちできるようになるために、学校と保護者、学校と関係機関が手を組み、あきらめずに支援を続けていくことが大切です。

### ① 関係機関を紹介する前に

Q 不登校状態が長引いているので、進学や進路が心配だ。保護者に関係機関を紹介したい。

A 関係機関は「アドバイザー」として活用し、「児童生徒が本当に行くべき場所は学校」という考えを捨てずに支援を続けていきましょう。また、保護者に適応指導教室等の関係機関を紹介し通室することになっても、学校の支援を続けていくことが大切です。

不登校対応の主役は学校と考えましょう。しかし、不登校状態の長期化を懸念し、学校から関係機関を紹介することがあります。その際学校と保護者と信頼関係が築かれていないと、保護者がネガティブにとらえることがあります。「**適応指導教室などの関係機関に通っても、学校が最善な支援を続け、再登校を目指してするよう働きかけていく**」という姿勢を保護者に伝え、**家庭訪問や電話連絡を継続して学校と家庭との関係を切らないようにすることが、本当の関係機関との連携です。**

### ② 関係機関はいつ？

Q 支援についてアドバイスを受けて。関係機関にはどのようなところがありますか？

A 県内各地の関係機関は、**あおもり子ども・若者支援機関マップ** に紹介されております。どこに相談したらよいかわからない方は、下記の番号まで電話すると、お悩みの内容に応じた相談窓口や専門機関をお知らせします。

**子ども・若者総合案内** (青少年・男女共同参画課内 案内専用電話)

**017-777-6123**

(9:00~17:00 土日祝日・年末年始を除く)

### ③ 学びのStep

最後に…この不登校対応パンフレットを契機に、研修や学習会を積極的に進めましょう。インターネットでは、文部科学省のデータや全国の教育機関の不登校・いじめ対応プログラム、NPO団体の活動、カウンセリング、SSWの活用など役立つサイトがあります。不登校対応の参考にし、校内研や参観日等で学んだり、活躍している先生の講演を聞くなど、教師も保護者も学びに積極的に取り組んでいきましょう。

お問い合わせ先  
青森県総合学校教育センター 〒030-0123 青森市大字大矢沢字野田 80-2  
☎ 017-764-1997 www.edu-c.pref.aomori.jp/  
✉ webmaster@edu-c.pref.aomori.jp  
教育相談課 ☎ 017-764-1990

○ 不登校の原因や現在の状態、それぞれが今どう考えているか、書き出してみましょう。

<b>本人</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野球部所属。運動会の選手決めで、友達から無理やりリレーのメンバーに選ばれ、それまでの友達への不満が爆発し不登校になる。成績は中の上。性格も優しい。家では自分の部屋に鍵をかけ一日中ゲームをしている。トイレとゲームとご飯のときは部屋を出てくる。部屋では拾ってきた猫を飼っていたが、子供を産み、部屋は乱雑。</li> <li>・4人きょうだいの次男。上に高3の兄、下に小6の弟、小2の妹がいる。母親にかまわれてないかも。</li> <li>・進学したい気持ちはあるが、学校自体がイヤだと言う。強がっている？ テストがあっても出校しない。</li> <li>・昼夜逆転の生活。運動不足。家庭訪問しても部屋から出てこない。ドア越しに話をするのがやっと。</li> </ul>
<b>保護者</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子家庭。スーパーの経理をしている。帰宅は毎日夜10時ごろ。収入は少ないようだ。不登校初期はご飯を食べたかどうか13時ごろ電話をして確認していたが、最近はしなくなった。</li> <li>・ご飯のおかずはスーパーのお惣菜の残り物が多い。</li> <li>・高校進学については、どこでも行ける場所があればいいと言っている。私立は収入の面からダメ。</li> <li>・何かにつけて長男のことをほめる発言がある。・家の中は物が散乱している。</li> </ul>
<b>教師</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連続欠席3日目に家庭訪問をしたが、誰も出なかった。母親との連絡は仕事が多く、落ち着いて話ができない。帰宅も遅いので、電話することが厳しい。</li> <li>・家庭訪問は週に1回。金曜日に行っている。お母さんの許可を得て、家に上がって本人の部屋の前まで行ける。本人とは部屋のドア越しに少し話ができる。担任より学年主任の方が信頼できるようで、学年主任と二人で家庭訪問したら、ドアを少し開けて顔を見せてくれた。その時少し部屋を見せてもらった。</li> <li>・学習の遅れと高校進学不安を解消してあげたい。</li> </ul>
<b>その他</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2歳下に弟、4歳下に妹がいて、時々A男はご飯を作って食べさせている。</li> <li>・野球部のメンバー5人ほどが〇月〇日の放課後家に行ったが、A男は部屋から出てこなかった。</li> </ul>

パソコンでも手書きでも良い。教師が知っている情報を箇条書きでよいので書く(話してもよい)。最初たくさん書けなくても、書いているうち(話しているうち)にどんどん思い出すことがよくある。

○ すくみの範囲(家から出ていける場所はどこまでですか?) ○で囲んでください。

※「すくみ」とは、気持ちが不安定になり、体の不調を訴え、体がこわばって一歩も歩き出すことができない、立ちすくむ状態のこと。

自分の部屋だけ	(自分の家の中だけ)	家の玄関まで
家の近所程度	学校の校門まで	学校の玄関まで
学校の相談室や保健室まで	教室の前まで	
その他 ( 学区から遠い市のショッピングセンターには家族で夜出かけることができる )		

○ ( )君・さんにとって、エネルギーになるもの・好きなことなどは何だと思いますか?

<ul style="list-style-type: none"> <li>・下のきょうだいに、晩ごはんを作ることがあるので、将来は料理の専門学校を勧めるのはどうか?</li> <li>・手先が器用。2年生で〇〇地区美術展のポスター部門で入賞した。</li> <li>・学力は低くない。数学と英語が好き。</li> <li>・釣りが好き。外に出ていないので、誘ってみる。</li> <li>・B君は家の中で一緒にゲームをしたと言っていた(B君が窓口?)</li> </ul>	<p>※最初思いつかなくても、教師同士の話で心のエネルギーになるものが見つかることもある。</p>
--	---

## パターン1

### 生徒の状態チェックシート（記入例）

記入日 〇月 〇〇日

(チェックはこまめに行いましょう)

学年・性別・生徒名(匿名可) .....

#### ○ エネルギーチェック (○で囲む。複数可)

##### 外出はできますか?

部屋の中だけ 家の中だけ 夜だけ 昼だけ  
自由にできる(昼夜を問わずどこへでも) 家から遠いところだけ  
家のそばだけ 同級生や同じ学校の人に会わないところだけ  
その他 ( )

##### 日常生活のリズム

起床時間(午後1)時ごろ 就寝時間(午前4)時ごろ  
決まっていない ( )

##### 自分から進んで行う行動はありますか?(手伝いでもなんでも)

- ・きょうだいの晩御飯づくり(たまに) ・猫の糞の始末
- ※基本的に家のことはしない。自分のことは必要に迫られてやる程度。

##### その他、自分の将来や生活についてエネルギーを感じる、前向きな発言や行動がありますか?

- ・本人は何か考えているようだが、今のところ前向きな発言は見られない。
- ・B男君には卒業後働きたいと話しているようだ。

##### 家の中で退屈し始めていますか?

- ・猫の世話が結構大変そうだ。 ・ゲームソフトがあまりなく、同じゲームばかりで飽きてきた。

#### ○ 学校への関心度

##### 学校に関するもの(教科書や制服や学習机など)への反応はどうですか?

- ・模擬テスト(数学)の問題を5問解いていた。 ・体が大きくなってきて制服が入らないようだ。
- ・暑い時は学校のハーフパンツをはいているときがあった。

##### 学校に関する話題を自分から話すことができますか?

- ・友達の話は気になるようだ。〇月〇日の家庭訪問で「〇〇君はどうしてる?」と聞いてきた。

##### 学習の遅れを取り戻すために、学びに取り組んでいますか?

- ・2年生までは定期テストが15位前後で推移していたので、基礎的な力はあると思う。今は学びに取り組む姿勢が見えない。今からでもやれば遅れは取り戻せそうだ。

##### 体力を補充するために家で運動していますか?

- ・運動はしていない。元野球部なので、基礎体力はあると思うが、筋肉が落ち、体つきが丸くなってきたのを見てわかる。

##### ほかに不安に思っていることがありますか?(本人・家族・教師等)その解消は?

- ・お母さんが楽天的なので、困り感が少ない。(下のきょうだいはA男が好きなようで、いつも家にいてうれしいようだ)
- ・嫌いな先生がいるようだ。(誰かは話してくれない。もしかして担任の自分?)

##### 学級の受け入れ態勢はできていますか?(友達の様子・学級の雰囲気・席の場所・掲示物など)

- ・野球部を中心に心配している友達が多い。学級では座席を廊下側の一番後ろにして入りやすいようにしている。家庭訪問をして、来週の連絡は必ず口頭で話している。(聞いていないかもしれないが)

○ その児童生徒のエネルギー（自信をつけ、家庭や学校への所属感を高めるもの）になるものを増やすために、具体的にやれることはありますか？

学校	学 習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント課題を用意。学習習慣をつける。</li> <li>・通知票に評定をつける。</li> </ul>
	学 級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、学級に入りやすい環境づくり。</li> <li>・学級で人間関係づくりプログラムを実施。</li> <li>・先生が折に触れ、○○君のことをそれとなく話す。</li> </ul>
	部 活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動だけ参加。</li> <li>・○○君とキャッチボール</li> </ul>
	行 事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係を決めるときに必ず名前を入れる。</li> <li>・美術や技術の作品を展示する。</li> </ul>
家庭	生 活 面	<p><b>【日常生活に起きる小さな出来事を材料にする。保護者ができることをいろいろ試してみる】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分からした家事を「お母さん助かった～」と言ってもらう。</li> <li>・ゲームやテレビの時間を○○君に考えさせ、実行してみる。</li> <li>・体力づくりの体操をする。</li> </ul>
	会 話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の話はエネルギーが満ちてきてからにする。</li> <li>・正論を言わず、子どもの気持ちに寄りそって話をしてもらう。</li> <li>・子どもが夢の話始めるよう、会話を工夫する。</li> </ul>
その他		<p><b>【思いついたことや上の項目で書ききれなかったことなどを何でも】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問を毎週（水曜または金曜）する。行けないときも電話で連絡する。</li> <li>・最低限の学力や困難を乗り越える気持ちを身につけて卒業させる。</li> <li>・母親が休みの日に面談をし、気持ちを聞いたり、今後の作戦を話し合う。</li> </ul>

※学校だけで悩まず、関係機関のアドバイスも受けながら取り組んでいきましょう。

※児童生徒のことを考えるときに、心がけておいた方がいいこと

- ① 家庭へのアドバイスを考える。
- ② 感情をキャッチすることに全力を傾ける。
- ③ 児童生徒の自主性を育てていく。
- ④ 学校がサポートすることを念頭に置く。
- ⑤ 関係機関からのアドバイスを実践してみる。
- ⑦ うまくいかなくても教師みんなでアイデアを出し合う。



①（ A ）**君**さんの対応として、目指すゴールはどこ？

教師	3学期には教室に1時間でも入れるようにし、卒業式も出席させたい。高校に進学させたい。高校に行けなくても、将来的に自立できるような力を付けさせて卒業させたい。
保護者	高校は行かせたい（母子家庭で収入が不安定、老人の介護もあるが…）高卒後は働いて家計を助けてもらいたい。
関係機関	不登校が長引くにつれて自分に自信を失っている。自己肯定感をあげたい。人と上手にコミュニケーションが取れるようにしたい。

② ゴールを目指すためには、児童生徒を取り巻く環境を良く知っている事が大切です。ステップに沿って確認していきましょう。

段階		内容・説明
ステップ1	ケースの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中3男子A君。5月連休明けから登校しぶり。夏休み明けから完全不登校。</li> <li>・家族構成（母、兄、妹、母方の祖父母、叔母）</li> <li>・母はスーパーのパート。</li> <li>・本人の様子</li> </ul> <p>&lt;校内&gt; 普段はおとなしく素直。 めったに怒らない。 朝、腹痛がして保健室に行くことがある。 特定の教科の学習をしないときがある。</p> <p>&lt;家庭&gt; お手伝いをよくする（風呂掃除・食器洗い・玄関の掃除）。 朝、起きられないことがある。二度寝すると昼まで寝てしまう。 ゲームはあまりやらない。携帯・スマホは持っていない。 叔母が車を持っており、時々載せてもらう。</p>
ステップ2	これまでの経緯	<p>（不登校になるまで）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①朝家を出るとき：外に出たがらない。母親が無理やり連れ出す。</li> <li>②スクールバスに乗りたがらないとき：女子（隣に住む）が声をかけるとしぶしぶ乗る。</li> <li>③スクールバスから降りたがらないとき：生徒が職員室に先生を呼びに行く。</li> <li>④自発的に降りるよう待つときがある。降りたら保健室・相談室に連れていく。</li> <li>⑤本人の気持ちが落ち着いたら話を聞く。</li> <li>⑥理由や今の気持ちをじゅうぶん聞く。</li> <li>⑦調子のよくない日は、「帰りたい」と泣くことがあった。</li> </ol>

③（ A ）君さんのエネルギーを高めるために、リソース（使える資源）を探していきましょう。

段 階		内 容 ・ 説 明
ステップ3	A君さんのリソース（使える資源）	<p><b>&lt;内的リソース:得意、興味関心、強み、売り、特徴&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆声優になりたい。（好きなアニメの影響）</li> <li>☆動物に詳しい。（特に猫が好き）</li> <li>☆英語検定3級取得。（次は準2級を受検予定）</li> <li>☆珠算1級。</li> <li>☆自分の興味のあることを話し始めると、ニコニコしていつまでも話している。</li> <li>☆ノートが丁寧。</li> <li>☆音読が上手。</li> <li>☆歌を大きな声で歌う。</li> <li>☆小テストなども手を抜かずに準備・練習して臨める。</li> <li>☆家事をよく手伝う。</li> <li>☆そっとすると自分から寄ってくる。</li> </ul> <p><b>&lt;外的リソース:友人、家族、先生、外部機関、宝物、ペット等&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆母親（一番大事に思っている、とても頼りにしている）</li> <li>☆兄（とても頼りにしている）</li> <li>☆妹（よく世話をしている）</li> <li>☆猫2匹（猫かわいがりしている）</li> <li>☆叔母（車で買い物に連れていってもらうのが楽しみ）</li> <li>☆祖母（押したり引いたり関わり方が上手）</li> <li>☆祖父（頑固・厳格。自分の言っていることは間違っていないと思込んでいる）</li> <li>☆よく声をかけてくれる女子（幼なじみ・隣家に住む）</li> <li>☆同じ学級の仲のよい男子2名（母は頼りにしている）</li> <li>☆担任の先生や保健室の先生（熱心に関わっている）</li> <li>☆技術の先生（太ってて優しいので好き）</li> <li>☆先生方（本人の状況をよくとらえて、様々な形で指導・支援している）</li> <li>☆校長先生・教頭先生（本人への柔軟な対応を考え、関わる人たちへの支援を具体的に実施している…学担、養教、生徒指導、保護者、関係機関など）</li> </ul>

- ④ ( A ) 君さんへ対応がうまくいっているかどうかは、振り返ることで明確化します。その人にとっての例外を探したり、うまくいったこと、うまくいかなかったことをふりかえってみましょう。

段階		内容・説明
ステップ4	「例外」探し	<p><b>「例外」：問題が起こらないですんだとき、少しでもうまくやれているとき、ましなとき</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝すんなり教室に入るとそのまま1日過ごせる。授業中挙手をよくする。</li> <li>・数学の小テストを合格することができる。</li> <li>・昼の給食当番の活動ができる。盛り付けも早くて丁寧（手伝いのおかげ？）</li> <li>・部活の大会当日→役割があるから行ける。</li> <li>・行事などでの後輩の様子についての記述がある。先輩としての自覚はありそうだ。</li> </ul>
ステップ5	日々接している人の関わり方	<p><b>&lt;うまくいった関わり&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆本人の興味のある話題で話しかけられると、ニコニコして話す。</li> <li>☆ほかに代わりがない「役割」だと必ず遂行しようとする。（給食当番、部活等）</li> <li>☆そっとすると自分から寄ってくる。</li> </ul> <p><b>&lt;うまくいかなかった関わり&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★強制的に登校させる ★無理やり何かをさせる。</li> <li>★問題の所在・原因を本人に求める（夜遅くまで起きていたからでしょ！ 学校を休むとお母さんが困るでしょ！ どうしてそんなことをするの！ どうしてやらないんだ！ 何がいやなの！ 何か問題があるのか！ など）</li> </ul>
ステップ6	中心となって日々接している人のリソース	<p>◎：ケースに関係あるリソース（友人、同僚、本人と共通の興味関心等）</p> <p>○：ケースに関係ないリソースもOk（趣味、支えてくれる人、こんなときにこんなものがあると落ち着く等）</p> <p><b>&lt;学級担任&gt;</b></p> <p>◎：同僚、管理職、専門・相談機関との関係      ○：スポーツ好き</p> <p>◎：動物好き</p> <p><b>&lt;母親・家族・その他&gt;</b></p> <p>母親…◎：前向き、子どもへの愛情、子どものためという勤労意欲、動物好き</p> <p>兄妹…◎：休んでいることについてそっとしてくれる</p> <p>母親の職場…◎：息子が不登校ということを理解し、学校からの呼び出しに対しても理解している。</p> <p>叔母…○：たまの休みに、街まで遊びや買い物に連れて行ってくれる</p>

3 年 〇 組 児童生徒氏名（匿名可） A君

- ⑤ ( A ) (君) さんがゴールへ向かうために、共通理解をはかり、目標がみえるように  
 しましょう。

段 階		内 容 ・ 説 明
ステップ7	ニーズの把握	<p>&lt;今日ここでどんなことが話し合われたらよいか&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A君へのうまい対応の仕方                      （ということを考えることが、実はすべての子への対応につながる）</li> </ul> <p><b>※ A君の目標「アニメの声優になりたい」…夢実現のために何ができるか</b></p>
ステップ8	ゴールについての検討	<p>&lt; A (君)さんがどうなればよいか？ それがいつまでに起こればよいか？ &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 嫌がらないで教室に行き、普通に1日を過ごすことが…                      5月の連休まで・・・1回もなかった。                      9月には ……1か月に1回ぐらいにしたい。                      12月には ……3週間に1回ぐらいにしたい。                      3学期には ……2週間に1回ぐらいにしたい。</li> </ul> <p>※今の生活がA君の「声優になりたい」という夢の実現への準備になるということ意識させていく。</p>
ステップ9	ゴール達成のために役立つようなこと	<p>○教科の授業や係活動、行事などでできそうな支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語と数学が得意。特化して伸ばす。</li> <li>・ 少しずつ責任を与えて係活動をさせてみる。</li> </ul> <p>○学担としてできそうな支援(学担以外の方は学担をサポートするための対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 好きなアニメの話に付き合う。</li> <li>・ 学級にいる時は他の生徒と同様に関わる（しかし、注意深く観察は続ける）。</li> <li>・ 家庭訪問を週1回実施して情報交換をする。</li> </ul> <p>※ 学級担任が授業の時は学年の教師が別途対応する。</p>